



9月10日午後0時（正午）（中央ヨーロッパ夏時間）まで公開禁止

グローバルファンド、7000万の命が救われたことを報告— 一方で進歩が危機に瀕していると警鐘

新しい報告書では、エイズ、結核、マラリアとの闘いにおける大きな進歩について強調する一方で、新たなコミットメントと投資がなければ、20年近くにわたり達成した成果が覆されかねないと警鐘を鳴らしています。グローバルファンドの第8次増資は、命に関わる三大感染症の終息に向けて世界的な取り組みを続けるために不可欠です。

2025年9月10日

ジュネーブ世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）は、本日年次[成果報告書](#)を発表し、2002年の設立以降、7000万の命が救われたという、特別なマイルストーンを達成したことを明らかにしました。

四半世紀に満たない期間で、各国政府、影響を受けるコミュニティと最前線のヘルスワーカーが協力するグローバルファンドのパートナーシップによって、エイズ、結核、マラリアを合わせた死亡率は63%、罹患率は42%減少しました。

「適切な手段、強力なパートナーシップと継続的な支援によってグローバルヘルスを改善できるということが、この成果によって証明されました」と、グローバルファンド事務局長のピーター・サンズは述べています。「しかし、今日の急速に変化する地政学的環境では、安心して余裕はありません。世界の保健コミュニティは、分断を解消し、重複をなくし、各国が私たちと協力しやすくするために、より迅速に行動しなければなりません。グローバルファンドは、大胆な変革にコミットしており、資金を最大限に活用し、各国の進化するニーズに対応し、国が主導し、国内資金によって運営される保健システムへの移行を加速させます。」

報告書では、グローバルファンドのパートナーシップが高い投資利益率を示していることに加え、過去最多となる抗レトロウイルス治療を受けているHIV患者数および治療中の結核患者数とともに、マラリアを予防する取り組みの継続的な拡大について紹介し、三大感染症との闘いにおいて達成された継続的な進歩について強調しています。

HIV/エイズ

2024年には、グローバルファンドが支援する国々でHIV陽性者の88%が自分の感染を知っており、79%が抗レトロウイルス治療を受け、74%がウイルス量の抑制を達成、妊娠中のHIV陽性者の85%が抗レトロウイルス治療を受けていました。こうした数値は、それぞれの指標の記録として過去最高の水準です。HIVの曝露前予防（PrEP）の利用は急増しました。2024年には、グローバルファンドが支援する国々で140万人がPrEPを受けており、これは2023年と比べて325%の増加です。2024年末にグローバルファンドは、HIV予防の注射剤として期待される[レナカピビル](#)の200万人への提供を目指すことを表明しました。

2002 年の創設以来、グローバルファンドが支援する国々でのエイズ関連死亡率は 82%、HIV 罹患率は 73%減少しました。

しかし、HIV は依然として深刻な感染症であり、世界の健康安全保障上の深刻な脅威です。2024 年には、世界で 63 万人がエイズ関連疾患で亡くなり、130 万人が新たに HIV に感染しました。この新規感染者数は、2025 年までに 37 万人未満にするという国際的な目標値の約 3.5 倍です。

結核

2023 年、グローバルファンドが支援する国々で結核治療のカバー率（全種類）が 75%に達しました。これは、2010 年の 45%から上昇して過去最高水準で、さらに薬剤耐性結核患者の 44%が治療を開始しました。治療を開始した結核患者の 88%は治療に成功し、結核に罹患した HIV 陽性者の 91%は抗レトロウイルス治療を受けました。近年グローバルファンドのパートナーシップは、結核の罹患率が高い国々で、AI による検出ソフトウェアを搭載した携帯型のデジタル胸部 X 線装置といった、革新的なツールの提供を拡大しています。こうしたツールによって、より多くの人々が適切な診断と治療を受け、結核を治すことができるようになります。

予防、検査、治療サービスへの公平なアクセスの提供、「見逃された」結核患者の発見と治療、薬剤耐性結核との闘い、そして結核対策の関連製品の価格低減に努めたことにより、2002 年以来、死亡率は 57%、罹患率は 28%減少しました。

しかし、結核は依然として世界で最も死亡者数の多い感染症です。2023 年には推定 130 万人が結核によって亡くなり、薬剤耐性結核は依然として世界の健康安全保障上の重大な脅威です。脆弱な保健システム、紛争、経済的困難によって、過去 20 年間の成果が失われる恐れがあります。

マラリア

2023 年には、グローバルファンドが支援する国々における殺虫剤処理蚊帳の普及率は 61%に達し、感染リスクが高い人々の 53%が蚊帳へアクセスすることができました。こうした数値は過去最高の水準です。マラリアの兆候や症状のある人々の 95%以上が検査を受けました。

コミュニティ・ヘルスワーカーの活動や地域主導の取り組みの支援、検査・治療・予防へのアクセスの促進、二重有効成分を持つ殺虫剤処理蚊帳の普及拡大の加速、さらに薬剤・殺虫剤耐性への対策などの成果として、2002 年以来、死亡率は 51%、罹患率は 26%減少しました。

マラリアの終息という目標が手の届くところまできていることは、2025 年に世界保健機関（WHO）によってマラリア撲滅の認定を受けた、スリナムと東ティモールの例を見れば明らかです。しかし、紛争の勃発、異常気象に伴う災害による混乱、薬剤・殺虫剤耐性の増加が、マラリア克服への取り組みを困難にしています。今、コミットメントを弱めてしまうと、壊滅的な勢いでマラリアが再燃する恐れがあります。その場合、5 歳未満の子どもと妊婦を含む、最も脆弱な人々を危険にさらし、世界の健康安全保障が脅かされます。

保健システムの強化と世界の健康安全保障

2024 年、グローバルファンドは 100 カ国以上の保健システムや疾病サーベイランスに 27 億米ドルを投資し、新たな感染症の発生を検知・追跡し、封じ込める取り組みを支援しました。この投資によりグローバルファンドは、パンデミックへの備えと対応強化を目的とした国際援助資金を供与する最大の機関となっています。こうした支援、特に検査機関と診断ネットワークを強化するための支援によって、エイズ、結核、マラリアに対する国家的な対応が強化されるだけでなく、B 型肝炎、C 型肝炎、ヒトパピローマウイルスといった重複感染のより正確な検出と適切な管理も可能になります。さらに、エムポックス、エボラ、マールブルグウイルス、クリミア・コンゴ出血熱といったハイリスク疾患の検査を、各国がより安全に、より多くの人に提供できるようになりました。

同時に、グローバルファンドが支援する国々は、より長期的に持続可能な能力向上を続けることで、三大感染症との闘いの勢いを維持し、保健システムとコミュニティシステムのより幅広い強化を継続しています。こうした取り組みには、国家的な計画の策定や調整の能力、サプライチェーンのインフラと能力、保健人材、データシステムへの支援も含まれます。こうした努力によって、グローバルファンドの支援による進歩が持続的に拡大し、各国がより一層の自立を目指すことができるようになります。2002 年以來、38 カ国で 52 のエイズ、結核、マラリア対策プログラムがグローバルファンドから移管されました。2026 年までに、さらに 8 カ国で 12 のプログラムがグローバルファンドの支援から離れて移管される予定です。

紛争と情勢不安への対応

2024 年も引き続き、紛争と情勢不安の広がりが、エイズ、結核、マラリア克服への世界的な進歩を脅かしました。世界の人口の 16%が暮らす地域に、世界のマラリア感染者の 3 分の 2、結核感染者の 4 分の 1、HIV 新規感染者の 17%が集中するという不均衡が、脆弱性の背景としてあります。

ウクライナからスーダン、シリアに至るまで、グローバルファンドは、必要不可欠な保健サービスと命を救う治療が、それらを必要とする人道危機下にある人々に確実に届くようにしています。アフガニスタン、バングラデシュ、エチオピア、ハイチ、モザンビークは、グローバルファンドの緊急支援ファンドの昨年最大の最大供与先でした。脆弱な状況でもリソースを迅速に展開し、既存のエイズ、結核、マラリア対策プログラムおよび保健サービスを確実に継続することを支援しています。

しかし、こうした成果は不安定な状態にあります。国際援助資金の減少と、債務危機、紛争、強制移動、人権侵害といった相互に関連する危機が、エイズ、結核、マラリアとの闘いを困難にしています。そして同時に、世界の健康安全保障も脅かされ、何百万もの命が危険にさらされています。

グローバルファンドの第 8 次増資

南アフリカと英国の共催によって 2025 年 2 月に開始した[グローバルファンドの第 8 次増資](#)は、グローバルヘルスの未来を左右する重要な節目となります。

この増資の成功は、エイズ、結核、マラリアとの闘いの勢いを維持し、これまでの 20 年にわたる進展を覆しかねない、三大感染症の再燃を防ぐ上でも不可欠です。迅速かつ重点的な投資がなければ、人々や社会、経済に甚大な被害をもたらす恐れがあります。

すでにオーストラリア、ルクセンブルク、ノルウェー、スペインのほか、民間セクターのパートナーとして The Children's Investment Fund Foundation と武田薬品が早期に誓約を表明しています。こうした一致団結したコミットメントは、命を救い、世界で最も死亡者数の多い感染症を克服するという機運の高まりと、世界規模での決意を表しています。

増資が成功すれば、グローバルファンドのパートナーシップは 2027 年から 2029 年の間に最大 2300 万の命を救い、2029 年までにエイズ、結核、マラリアによる死亡率を 2023 年の水準と比較して 64%減少させるとともに、保健システムとコミュニティシステムを強化して新たな感染症の発生を抑制し、自立を目指す取り組みを推進させることができるようになります。

###

グローバルファンドは、エイズ、結核、マラリアの流行を終息させ、全ての人に健康かつ安全で、より公平な未来を築くための世界的なパートナーシップです。年間最大 50 億米ドルの資金を調達し、最も影響が深刻な 100 カ国以上における、最も致命的な感染症との闘い、感染症を助長する不公平の克服、保健システムおよびパンデミックへの備えの強化に投資しています。世界のリーダー、コミュニティ、市民社会、ヘルスワーカー、民間セクターと連帯し、最も効果的な方策を見出し、世界規模で展開しています。2002 年の設立以来、グローバルファンドのパートナーシップの支援により 7000 万の命が救われました。